

茨城県立高萩高等学校 グランドデザイン 2020



□ 学校教育目標 伸ばそうみんなの良いところ！愛そう私の良いところ！

- 1 生徒と教職員がお互いを信頼し、協働して成長できる学校
- 2 一人一人の多様性を認め、個に応じた支援を図り、誰にでも居場所があり、安心して自己実現を図れる学校
- 3 柔軟なカリキュラムで、希望に応じた進路実現を目指し、主体的な学習や体験を通し、社会性や勤労観を育む学校

□ 令和2年度 重点目標 フレックススクール完成年度・・社会に貢献できる人材の輩出

- 1 個々の資質能力を伸ばせる学校づくり
- 2 3(4)年間を見据えたカリキュラムの完成
- 3 地域との連携・協働と地域への貢献
- 4 規範意識を高め、社会性を身に付けさせる

□ 心の教育の充実と絆づくり

○3(4)年間を通した心の成長を目指す教育課程
○「道徳」「道徳プラス」を活かした心の教育の充実
○体験型授業・行事を通して、生徒相互・教職員の結びつきを強め、互いに信頼して成長できる学校を目指す

□ 地域との連携と地域貢献

○地域と連携した防災関連行事(避難訓練・炊き出し体験)
○地域資源の活用(野外体験、インターンシップ)
○地域行事へのボランティア参加
○地域の抱える課題を探究

□ 何ができるようになるか・・学習の手立て

○「わかる授業」を通して、基礎学力の定着を図る
○「主体的・対話的で深い学び」の実践
アクティブ・ラーニングの推進
→自分で考え判断する力、協力して課題を解決する力
自分の考えを相手に伝える力を身に付ける
○体験型の授業・行事・自己達成感を持ち、自己表現する力を養う

自己肯定
感の向上

□ 何が身についたか・・学習評価の在り方

○観点別学習状況評価
○生徒個人の学びの成長がわかる、ポートフォリオ型の評価
↓
【教員の授業改善につながる学習評価】

□ 生徒の実態

・おとなしく、素直な生徒が多い
・特別な支援が必要な生徒が多く、多方面からのケアが必要
・不登校経験者が多く、高校での学び直しを期待している
・与えられた課題はできるが、自ら課題を見出す力が弱い

□ 発達をどのように支援するか

・個に応じたきめ細やかな指導
・不登校傾向の生徒への支援
・教育相談体制の充実
*SC・SSW・CAの活用
・地域との連携強化
チーム学校の体制強化



□ 目指す生徒の姿

・自分の意見を他者に伝え、他者の意見を聞き、課題を解決しようとする生徒
・地域・社会の課題に関心を持ち、自己の能力を活かして、社会貢献できる生徒
・他者と協働して、課題解決を図っていく生徒

□ 何を学ぶか（特色ある学び）

〈多様な学校設定科目から、自己の特性に合った科目選択〉
・体験型の学習(リズムエクササイズ、日本の伝統文化《茶道・華道・書道》、折り紙)
・異文化理解(韓国の伝統と文化Ⅰ・Ⅱ)
・基礎学力定着(基礎数学、実用英語、基礎国語、ベーシック社会など)
〈フレックスならではの科目〉
・心理学・人間関係の構築
・農業・生産、収穫を通して達成感を得る

□ どのように学ぶか（学びのスタイル）

〈主体的・対話的で深い学びの実践〉
・常に自分の頭の中をアクティブに働かせながら学習する
・ICTを活用して、主体的に学習する
・他者の意見を聞き、他者と協力して課題を解決する
・言語活動を通して、コミュニケーション能力を高める
・総合的な探究の時間を活用して、自己を見つめ、社会を知り、自ら貢献できる力を3年間かけて積み上げる。

□ 実施するために何が必要か（教職員のスキルアップと地域連携）

・教職員のスキルアップを目指す研修への積極的参加
・地域との連携強化(人的・物的体制の強化)
・教育相談体制の充実(*SC・SSW・CAの活用)
・学校評議員・保護者からの学校評価の利活用
・校内研修の充実(授業と評価に関する研修)
・チーム学校の体制強化(地域・保護者・教職員との連携)
・子供と向き合う時間の確保(業務の効率化・勤務の適正化)
・異校種間との相互授業研修の実施

□ 安心・安全の確保（防災教育）

・年2回の防災避難訓練
・「高萩高校《防災の日》」として、防災講習・炊き出し体験を実施。防災意識を育て、地域防災の担い手を育成する。
・毎月「マナーアップ週間」を設定

□ 地域に開かれた学校づくり

・年3回の学校説明会(保護者・中学生・中学校教員)
・中学校、特別支援学校との相互授業研修
・地域行事へのボランティア派遣
・地域と連携した防災行事